

「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」策定状況 及び高等学校の特色化・魅力化に向けた方策について

岡山市教育委員会

○岡山市立高等学校について

岡山市教育委員会が所管する高等学校は、単位制総合学科の岡山市立岡山後楽館高等学校の1校である。岡山後楽館高等学校は、岡山後楽館中学校が併設された岡山市唯一の中高一貫教育学校であり、その運営について当教育委員会と協議するプロジェクト会議を定期的に開催している。

○スクール・ミッション策定の流れについて

令和3年

- | | |
|--------|--|
| 3月31日 | 学校教育法施行規則等が一部改正 |
| 5月10日 | 岡山後楽館高等学校訪問
・高等学校改革主管課長会議（4月21日）の内容を受けて、今回の学校教育法施行規則等の一部改正について高等学校にレクチャー |
| 6月7日 | 岡山後楽館高等学校訪問

・校長の学校の方向性に関する意見を聴取
・「スクール・ミッション」の策定において、現行の「学校のミッション（高等学校が策定したもの）」とプロジェクト会議での「学校の存在意義や方向性」に関する議論の積み上げを大切に原案を作成することを確認 |
| ～6月22日 | 教育委員会事務局担当課で「スクール・ミッション」原案作成 |
| 6月23日 | 令和3年度 第1回プロジェクト会議
原案を提示し、岡山後楽館高等学校・岡山後楽館中学校の意見を聴取 |
| ～6月30日 | 教育委員会事務局担当課で「スクール・ミッション」最終案策定 |
| 7月27日 | 教育委員会定例会で「スクール・ミッション」決定 |
| 7月29日 | 岡山後楽館高等学校訪問 決定した「スクール・ミッション」を伝達 |

○「スクール・ミッション」

「自分で創る学校生活」の建学の精神のもと、単位制総合学科の特色と中高一貫教育校の強みを生かし、多様な生徒の個性を大切にしながら、生徒一人一人の自立に向かう成長を支える。

地域や世界とつながり、他者との協働活動を通じて、創造力、論理的思考力、表現力を伸ばし、自他を尊重できる持続可能な社会の創り手を育成する。

○「三つの方針」策定について

正式決定した「スクール・ミッション」伝達後、高等学校で「三つの方針」の原案を作成し、地域協働学校運営連絡協議会等での意見聴取などを経て、最終的に職員会議で「三つの方針」を最終決定。

○高等学校の特色化・魅力化に向けた方策について

岡山後楽館高等学校は、岡山市立岡山工業高等学校と岡山市立岡山商業高等学校をルーツにもち、平成11年に定時制高等学校として設立した。総合学科の特色を生かした多様なカリキュラムのなかで多様な個性をもった生徒が学ぶ学校である。また校則がなく、社会のルールを学校のルールとしている。全日制高校となった現在も「自分で創る学校生活」の建学の精神を大切に自立した生徒の育成を目指して教育活動を行っている。さらに中高一貫校として6年間を見通した教育を行い、学校行事や部活動なども中学生と一緒にやっている。

上記の特色をもつ岡山後楽館高等学校では、大きく2つの取組で魅力化を図っている。一つは岡山市街の中心部に位置し、唯一の岡山市立高等学校として様々な機関や団体からの援助を受けやすいという特徴を生かした「まちなかのふるさと学」である。主に総合的な探究の時間を使い、市内外から講師を招いて社会を知ることを通して自分たちがこれからどのような社会を築くのか、そのために自分たちがいかに生きるのかを考えている。なお、岡山後楽館高等学校は建学当初より、まち全体を学びのステージとする「シティキャンパス構想」によって教育活動が考えられてきている。このような学びを後押しすべく当委員会としては講師派遣の用いる予算の充実や地域コーディネーターの配置を行っている。これにより、岡山後楽館高等学校では総合的な探究の時間だけでなく、工業や福祉の授業においても地域人材の活用がなされている。

二つ目の魅力化は国際交流活動の充実である。岡山後楽館高等学校には常に英語・ハンダール・中国語のALTを常勤で配置しており、特に中国語ALTは日中友好協会の支援を得て岡山市の国際友好交流都市である中国洛陽市から毎年派遣されている。また、同じく国際友好交流都市であるアメリカ合衆国サンノゼ州や大韓民国富川市を訪れて生徒がホームステイを行い、留学生を岡山後楽館高等学校に受け入れるなどの活動を毎年行っている。この度の東京オリンピック・パラリンピックの際には国際友好交流都市のあるブルガリア選手団と交流を深める取組を行い「ホストタウン功労賞」を受賞している。当教育委員会としては、これらの活動を行うための予算の確保に努めており、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限される現在においても、ビデオ会議システムなどを活用しながら活発な国際交流が行われている。

課題としては、特色ある活動自体は行われているが、それを地域や中学生に向けて十分に情報発信できていない点がある。特色ある活動を整理し、充実させ、適切に広報を行うことで高等学校の魅力として学校内外の多くの人に認知される状態をつくる必要があると考えている。